



▲りんご並木を自主管理している飯田市の中学生



▲年間 20 億円の売り上げを誇る「げんきの郷」

### 総務常任委員会行政視察報告

平成 20 年 10 月 8～10 日の日程で長野県において行政視察を実施した。小諸市では「小諸市ロハス政策」と「学校給食による地産地消の取り組み」の 2 点について、飯田市では、「自治基本条例」についてであった。

小諸市ロハス政策の「ロハス」とは Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字で造られた言葉で、健康と環境に配慮した持続可能な社会を目指した暮らし方を意味している。内容を聞いてみると、当市が現在実施している施策と類似しているものが多くあると感じたが、違いは政策の一部として明確にはっきりと位置づけられているかどうかの差であると思われた。この分野において、これからの当市の方向性を示すものと感じた。

学校給食では自校方式で、地産地消導入のきっかけは、安全性の最優先と地場産品を見直そうと教育委員会が中心となり、生産者・学校栄養士等で協議し、昭和 63 年 5 月から開始し、現在 20 年目を迎えており、地場産野菜の使用割合は 80 パーセント程度と高い数値となっている。当市が取り組んでいる総合食育センター構想の参考になるものと思われた。

飯田市の「自治基本条例」で特筆すべきと感ずるのは、自治基本条例にもかかわらず議員発議による条例制定であるという事と、制定までに 4 年という歳月をかけて議会内はもちろん、住民や行政当局とも十分に議論を重ねた結果であるという事であった。その 4 年というプロセスにより、議員の考え方が変わり、行政への各分野での働きかけやチェック機能の強化に繋がったという事であった。当議会でも大いに見習う必要性を感じた。

### 産業建設常任委員会行政視察報告

11 月 19～21 日まで、愛知県東海市、豊田市、大府市を視察した。

東海市では、遠野出身で矢橋工業名古屋事業部に勤務している小笠原信夫氏の紹介により、中部地域唯一の鉄の総合基地で、紙よりも薄い各種鉄板や電縫鋼管など、幅広く提供できる体制を整えている新日本製鐵名古屋製鐵所構内を研修した。

豊田市では、全国第 1 位の製造品出荷額等を誇る「クルマのまち」としてその名が知られている。トヨタ自動車本社工場では、工場の専任ガイドに従い、人気車種等の溶接・組立の各製造工程を見学した。従業員が工作ロボットと共同して働く効率的な生産ラインで、高品質な自動車が次々と生み出されていた。今、日本をはじめ世界で大きな産業機構の変革が始まっている。豊田市の産業も例外ではなく、このような問題を抱え、地域企業への既存産業振興施策の見直しを図り、その実現に向けて取り組んでいた。

大府市での主産業は、トヨタ自動車関連の愛三工業等の企業を中心に住友化学など金属や機械等があり、また、隣接している東海市や大都市の名古屋市のベッドタウン的性格も強い。農業では、「げんきの郷」の経営を中心に、生産量が県第 1 位の伊勢芋、2 位のたまねぎの生産が盛んである。畜産においても酪農部門と肉牛生産部門が盛んで、戸数が少ないが大規模で経営されており、安全で良質な農産物の生産のため、畜産農家と耕種農家が連携して、糞尿の堆肥化とその利用により、土づくりを推進するとともに、減農薬・減化学肥料農産物の生産拡大と認証制度を通じて、持続的農業を推進していた。